

平成21年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および後期の扱い(改善策)
1 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。 ・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む	学校評価を年2回実施しその結果を検討・分析して今後の学習活動の改善・向上に役立てる。	総務課	【満足度指標】 保護者アンケートにおいて、本校が学力向上に積極的に取り組んでいる、と評価される。	判断基準が、「よくあてはまる」と答えた割合が前年度より A 10%以上増加した。 B 5%以上増加した。 C ほとんど変わらなかった。 D 減少した。		保護者アンケートはまだ実施していない。12月に実施の予定。 生徒による評価アンケートでは60%の生徒が本校の学力向上に対する姿勢を評価してくれている。
	教科として授業改善に取り組む。校内研究授業では、教科として目標を設定し取り組む。教員同士の授業参観をより積極的におこなう。	教務課	【満足度指標】 「授業が充実している」に対する生徒評価で、 よくあてはまる = 4 ややあてはまる = 3 あまりあてはまらない = 2 全くあてはまらない = 1 として点数化する。	生徒による授業評価の「授業が充実している」の評価の平均が A 3.4以上 B 3.35以上 C 3.3以上 D 3.3未満 (昨年度は3.3)	B 生徒による授業評価(7月実施)の評価の平均が3.36	生徒による授業評価の「授業が充実している」の評価の平均は3.28(昨年度7月) 3.31(昨年度12月) 3.36(今年度7月)と推移しており、着実に授業改善の成果が現れていると考える。後期も、校内研究授業・教員同士の授業参観に積極的に取り組んでいきたい。
	基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。	進路指導課	【成果指標】 超難関大・難関10大学・国公立大の志望者全体成績の向上をめざす。	東京大学・京都大学の合格者の合計人数が、 A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満		東大実戦判定 A1、B4、C11、D8 京大実戦判定 A2、B3、C2、D6 東大京大志望者については、10月に再度、実戦結果等を踏まえ、指導。 今後も3年学年団と連携して志望校別情報交換会を実施する予定。
	学習の柱となる授業の内容をいっそう充実させるとともに、補習や個人添削を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。	3学年	【成果指標】 生徒の志望する大学への合格率が上昇する。	難関10大学及び国公立大学医学科の合格者数が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満	未参考 難関10大学志望者194名 (A～C判定80名)	従来実施していた東大・京大・医学部志望者説明会を難関10大学に拡大し、志望校別情報交換会「チャレンジクラブ」を立ち上げた。総体終了後、夏季補習中、記念祭終了後のタイミングで3回実施したが、学習計画の見直しや教材の提示等で生徒に具体的な指示をすることができた。成績については文型は過去5年間で最も高く、出遅れが懸念された理型も総体後から粘りを見せている。現在、個別添削も始まっており、授業のいっそうの充実を柱に個別試験に対応できる記述力の完成を図りたい。
ホーム担任および学年主任は、全国規模の校外模試生徒に対し、年間5回以上の個別面接指導を実施する。	1学年	【満足度指標】 学年団の指導による	学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考え A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1年 93.4% 2年 97.3%	4月以来、学年集会はもちろんのこと、進路だより、学年だより等を通して学力向上に向けた意識付けを行ってきた。また、始業前や休み時間を利用した課題学習(英・数・国)、定期試験前の質問教室を実施することにより、自主的に学習する習慣付けを図ってきた。今後はさらなる飛躍をめざして指導していきたい。 個別面談、進路だより、学年集会などを通して、目的意識や進路意識の向上に努めた。また、国数英において小テストや基礎力確認テストを実施し基礎基本の徹底を図った。後期からは、個々の学力レベルに応じた課題を提示して中位層の底上げと、最上位層の育成を図っていききたい。	

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および後期の扱い(改善策)
「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・あいさつの励行、成果ある部活動と充実した創立記念祭の取組	挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりした挨拶の実行を促す。	生徒指導課	【成果指標】 多くの生徒が、しっかりと挨拶が出来る。	自分自身がしっかりと挨拶をしていると答えた生徒(主観的評価)と、周りの生徒の挨拶がしっかりとできていると感じる生徒(客観的評価)がそれぞれ A 90%以上いる。 B 80%以上いる。 C 70%以上いる。 D 70%未満である。	客観的評価の内、AとBを合わせた肯定的評価が88.4%	前年度は主観的評価が90%を大きく超えたため、今年度は客観的評価のアンケートを実施した。単純に比較はできないが、19年度の客観的評価の結果よりも肯定的評価が高くなっているため、周りの生徒の挨拶がしっかりとできていると感じる生徒が増えているようである。今後も登校指導時などで、より大きな声で、元気よく挨拶するよう促していきたい。
	部活動の活性化、競技力の向上を図る。	生徒指導課	【成果指標】 総体の総合順位を上げるため、全校あげて取り組む。	総体総合順位が A 3位以上 B 6位以上 C 9位以上 D 10位以下	暫定順位 男子 7位 女子 13位 総合 5位	水泳競技までの、暫定順位は、総合5位で、昨年度の8位から順位を上げている。 団体では男子ハンドボールの優勝をはじめ、3位以内に入賞した部活の数は昨年度なみであったが、個人種目では、夏季の水泳種目での入賞者が目立った。
	利用しやすい図書館めざす。読書時間調査や読書傾向を掴み読書量の増大を図る。	図書課	【成果指標】 生徒の読書量増加をはかる。 (昨年は約3800冊)	1年間(1月末現在)の本の貸出し数が、 A 4500冊以上 B 4000冊～4449冊 C 3500冊～3999冊 D 3500冊未満	9月末現在で、2136冊 (開館95日) 昨年同時期 2173冊 (開館99日)	生徒への本の貸し出し数は、昨年同時期とほぼ同じ。後期は、読書週間、校内読書会、図書便りなどを利用して、図書館活動をアピールしていく。 閲覧室の特設コーナーを月に1回程度更新、充実させ、入館者を増やし、貸し出し数増加に繋げていきたい。 進行中の図書館の蔵書の電算化作業を推進し、パソコン検索や貸出業務の効率化に向けた取り組みを進めていきたい。
	部活動と勉学の両立をめざす。時間のけじめや、社会規範を身につけさせる。	2学年	【満足度指標】 学年団の指導により、生徒の規範意識が向上した。	学年団の指導が、自分の規範意識向上に役立ったと考える生徒の割合が学年全体の、 A 80%以上 B 70～80% C 60～70% D 60%未満	A 前期末の調査において 91.9%	9月までの1日当たりの遅刻者数の平均値は、3.0を下回ったが、6月、7月、9月は、3.0を上回っている。今後、遅刻指導を継続し、回数の多い生徒については、生徒指導課と連携し指導を強化したい。また、遅刻指導だけでなく、高校生活全般における規範意識の向上にさらに取り組んでいきたい。
	自立心の育成をめざし、いち早く高校生活に慣れさせる。	1学年	【満足度指標】 学年団の指導により、生徒との連携をはかり、積極的に学校生活をおくるよう支援する。	学年団の指導が、学校生活を有意義に送るために役立っていると考えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 前期末の調査において 93.4%	

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および後期の扱い(改善策)
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。	PTA 総会時の土曜エクステンションスクール泉丘や「いしかわ教育ウィーク」を中心として、授業公開を積極的に行う。今年度は、教員同士の授業参観期間(前期・後期にそれぞれ5週間)にも授業公開を実施する。	教務課	【満足度指標】 授業公開や研究授業の実施によって、授業の質や評価の向上が見られる。	保護者による学校評価の「教職員は、指導力に優れ、信頼できる」に対し、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と答えた保護者の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	判定不能 12月にアンケートを実施予定	授業参観した保護者の人数が、前期の段階で1226人(PTA総会611+体験入学180+中学校PTA訪問435)であり、過去2年間の年間の参観人数(平成19年度755人、平成20年度881人)を大きく上回っている。保護者のみならず、他の高校からの授業参観も頻繁に行われており、適度な緊張感を生んでいると考える。後期においても、積極的に授業公開を進め、研究授業や教員同士の授業参観の充実と連動されて、授業の質や評価の向上を図っていきたい。
	生徒、及び保護者が気軽に来室でき、安心して相談できる環境作りを一層進めていく。	教育相談室	【努力指標】 生徒や保護者が親しみやすく気楽に来室できるようになる。	生徒・保護者に対して「相談室だより」を年間で、 A 5回以上出した。 B 4回出した。 C 3回出した。 D 2回以下しか出せなかった。	前期において3回出した。	前期において、「相談室だより」を、4月当初(全学年対象)・5月初め(1学年対象、アンケート形式)・9月初め(全学年対象)の計3回出し、相談室の利用を呼びかけた。問題を抱える生徒の早期発見につながったケースもあった。 後期においても、相談室がさらに気軽に来室できる場となるように、「相談室だより」の内容を検討し、時機をとらえて出していく予定である。
	ISO活動「節電・紙の節約やりサイクル・ゴミの分別」を通して、環境保全意識の向上を図る。	保健環境課	【満足度指標】 生徒の「環境意識」を高め、地域での活動に積極的に取り組むよう促す。	生徒の「環境意識・地域での活動」の自己評価全体に占める肯定的評価(「よくあてはまる」と「だいたいあてはまる」の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 環境保全活動に対して、肯定的評価は全校で80%であった。(6月実施の生徒アンケート)	6月実施のアンケートによれば、1年は「あてはまる」と答えた生徒が69名(19%)、「ややあてはまる」と答えた生徒が215名(60%)であった。以下同様に、2年は54名(24%)と123名(55%)、3年は68名(30%)と112名(50%)であり、全体では191名(24%)と450名(56%)であった。昨年同様、学年進行につれて意識が高くなっている傾向がある。 後期は落ち着いてISOだより等の広報活動を強め、生徒の積極的な参加を促したい。
	ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・SSHの様子や教育課程・進路などの情報を校外へ発信し、よりわかりやすく公開する。	情報管理室	【満足度指標】 保護者による外部評価において、「学校のホームページにより、学校の様子がわかる。」という人数の増加が見られる。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる。」という項目のよくあてはまるとややあてはまるを合わせた割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である	判定不能 12月にアンケートを実施予定	学校の様子がわかりやすく伝わるよう、写真や図表を多く取り入れたwebページを心がけている。今後は行事等の実施時期とwebへのアップロード時期の時間差をできるだけ少なくするよう、各課室にデータの提供を迅速化するよう働きかけていきたい。
	創立記念祭で、理数科1年生が近隣の小中学生に対して理科教室を開き、地域貢献を図る。	SSH推進室	【成果指標】 啓発活動を通じて、保護者や地域の小中学生が、参加する。	創立記念祭中の教室の来客数が、 A 100人以上 B 75人以上99人以下 C 50人以上74人以下 D 49人以下	A 来客数をカウントすると130人を超えていた。	人間一人を乗せて動くホバークラフトを製作すると聞き、材料となる浮き輪と台となる厚い板を見た。その厚い板と人間を掃除機一つで浮かすことは不可能だと思ったが、理数科の生徒たちは、あきらめずに制作し、人間を乗せるホバークラフトを完成させた。ホバークラフトは、空気砲、スライム作り、カルメ焼き作りなどと共に来場者にとっても好評で、彼らは達成感を感じることが出来た。後期はコスモサイエンスがいよいよスタートする。科学する心がますます育っていくと思われる。